



脳梗塞患者における

入院後早期リハビリテーション実施率

<項目解説>

脳梗塞患者への早期リハビリテーションの実施は、後遺症の軽減や早期の自立・在宅復帰に有効です。意識がなく、ICU（集中治療室）やSCU（脳卒中治療室）に入室している状況においても、適切にリハビリテーションを施行することで、意識回復後の機能改善の可能性が高まり、入院期間の短縮やQOL（生活の質）の改善にもつながります。

本指標は、より適切な医療介入を評価するものです。

<当院の実績>

【平成25年度】	83.1%	(108/130)
【平成26年度】	91.7%	(133/145)
【平成27年度】	91.4%	(128/140)
【平成28年度】	93.6%	(146/156)
【平成29年度】	98.2%	(217/221)

<当院の自己点検評価>

当院は広大な十勝圏域の3次医療を担っており、急性期の脳梗塞患者も数多く搬送されてきます。脳梗塞における早期リハビリテーションの実施は、長期的な機能改善に大きな影響を与えるため、診療科とリハビリテーション部門との密接な連携が不可欠です。

<定義>

- ・算式のとおり（50歳以上、在院日数3～90日、救急入院のみ）
- ・入院から2日以内の退院と、転帰が死亡である場合は除く

<算式>

分子：入院3日以内にリハビリテーションが実施された患者数

分母：主傷病名が「脳梗塞」の患者数

基礎データと解析

～平成29年度 MED I-ARROWS（ニッセイ情報テクノロジー株式会社）

平成30年度～

SMASH（セコム医療システム株式会社）